

## THE ROTARY CLUB OF KARIYA



## Weekly



2007～2008年度 国際ロータリー ウィルフレッドJ.ウィルキンソン会長テーマ

ROTARY SHARES ロータリーは分かちあいの心

創立 1954年3月8日  
承認 1954年3月30日

例会日時 毎週月曜日  
12:30～13:30  
例会場 刈谷市新栄町3の26  
刈谷商工会議所内  
事務所 TEL (0566)22-2111  
FAX (0566)25-2111  
メール kariyarc@katch.ne.jp  
ホームページ http://www.kariya-rotary.com  
会長 橋本 恭典  
幹事 鈴木 文三郎  
会報委員長 酒部 正博

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

## 第2567回例会プログラム

[当年度 = 9回目; 当月 = 2週目]

2007年(平成19年)9月10日(月)

## 職 場 例 会

於：オイスカ中部日本研修センター

## 1. 例会 …… &lt;司会：プログラム委員会&gt;

- 12:30 1. 点 鐘 …… <会 長>  
2. 開会宣言  
3. ロータリーソング斉唱 …… 我等の生業  
4. 講師・ゲスト並びにビジター紹介  
5. 会長挨拶並びに会長報告  
6. 幹事報告  
7. 出席報告  
8. 委員会報告  
9. ニコニコボックス報告  
10. 次週並びに次々週のプログラムの予告  
(9/17) ……休 会 (法定休日)  
(9/24) ……休 会 (法定休日)  
(10/1) ……卓 話

「近頃のロータリーについて思うこと」

講師 地区研修リーダー・パストガバナー

豊島 徳三氏 (一宮北 RC)

(紹介者 野村重彦会員)

12:45～13:15 食事 (各国研修生との合同食事会)

## 2. クラブフォーラム …… &lt;司会：職業奉仕委員会&gt;

13:15～13:45 「オイスカについて」

オイスカ中部日本研修センター

所長 小杉 辰雄 氏(紹介者 岡本 巧会員)

11. 謝 辞  
12. 諸事ご案内  
13. 点 鐘

13:45～14:15 見 学

## 出 席

会員総数 93名 出席免除 21名  
出席義務 72名 欠席 21名 出席率 70.83%  
前々回(8/27)の修正出席率 100%

## 会 長 報 告

- 1) 刈谷市国際交流協会理事を委嘱されました。

## 幹 事 報 告

- 1) 来年の4月12日から1ヶ月、フランスのRI第1780地区に派遣されるGSEメンバーとして、株式会社クイックスの永田万規衣さんが合格しました。刈谷ロータリークラブ推薦の初めてのGSE派遣メンバーです。  
2) 2005-2006年度ロータリー財団国際親善奨学生 平田康治君から1年間の英国留学の後、1年間台湾での留学を終え帰国した旨のメールが届きました。今後は東大修士課程で勉強を続けるそうです。

## 会 長 あ い さ つ

橋本 恭典



本日は職業奉仕委員会のお世話で、オイスカ中部日本研修センターさんの見学並びに組織や活動状況について、勉強させていただきにまいりました。

オイスカの目的は、恒久的に平和で幸福な世界の構築に、貢献する方法を打ち立てる事とあります。これは我々ロータリアンの「世界における親善と平和の確立に寄与することを目指す」に相通するものであります。

現在、世界は自然破壊や貧困、民族紛争など、多くの問題を抱えています。オイスカはこれらの問題解決の糸口を、自然の中に求められ、主にアジアの発展途上国から、農業研修生の受け入れとか、海外で現地の人たちと

共に汗を流しての、植林事業等をされてみえます。

詳しい説明は後ほど伺いたいと存じますが、自然破壊や植林等の関連で京都議定書のことを思い出しましたので少しお話しさせていただきます。

京都議定書は正式には「気候変動に関する国際連合枠組条約の京都議定書」と言いまして、「地球温暖化の原因となる温室効果ガスの一種である二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素などについて、先進国における削減率を1990年基準として平均5%、各国別に定め共同で約束期間内に目標を達成する。」というものです。日本は6%削減で2002年国会承認されております。EUが8%、アメリカ7%削減、ニュージーランド、ロシア0%、オーストラリア+8%などですが、アメリカは参加せず、2004年ロシアが批准したことで発効条件である、55カ国以上の国の締結、参加した諸国の二酸化炭素の1990年排出量合計が、世界の排出量の55%以上という条件をクリアし、ようやく発効しました。

温室効果ガス削減のために行う植林活動や、他国の排出権を購入したり、より削減コストの低い国へ資金提供や投資を行い、その排出削減量を自国の排出量に還元することも出来る仕組みにもなっております。先進国はすでに取り組んでいるので投資の割に効果が出なく、発展途上国に持ち込めば大きく効果の上がることが多いのも事実です。

先週末にはオーストラリアで開催されたAPECの場で、エネルギーの利用効率を25%上げようという努力目標が決まりましたが、拘束力はありません。先進国間でも日本のエネルギー利用効率はアメリカの4倍よく、ドイツの2倍効率が良いそうです。

しかし日本の二酸化炭素排出量2010年見通しは1990年対比14%増とされており、2012年に目標達成するには6+14の20%相当分の削減をせねばなりません。ほとんど不可能に近いのです。

2003年の排出量はアメリカ23%、中国16%、ロシア6%、日本5%、インド4%などこれだけで54%もあるのですが、アメリカは参加せず、中国、インドは発展途上国で削減不必要、ロシアは次に述べる理由でらくらくクリア、余ってます。日本は排出の権利（現時点2兆円）を金銭で多分ロシアから買わねばならないと存じます。なぜならロシアは90年代の経済活動の停滞で排出量が大幅に減っている上、広大な森林が二酸化炭素を吸収する量を批准に当たって2倍の了解を取り付けたので、なにもしなくとも排出枠に膨大な余剰が生まれることとなりました。ロシアが京都議定書を批准したのは、日本にその枠を売るためとも言われております。

京都議定書は結構厄介なものになりそうですが、ここオイスカにおきましては、足を地につけた、地道な農業研修を通して人材育成や各国との国際協力国際親善を図られますよう祈念しております。本日はよろしくお願ひ申し上げます。

## クラブフォーラム

### オイスカについて

「ご挨拶」

オイスカ中部日本研修センター  
所長 小杉 辰雄 様



本日は、当センターにお越しいただきありがとうございます。この機会を利用していただき、ぜひオイスカの行っている国際交流、国際開発への協力等の一端を皆様に見ていただきたいと思ひます。

当財団も1961年に設立し、40数年経っているわけですが、先ほど橋本会長のお話にもありましたように、当財団も、不安のない社会を築くという奉仕の精神によってできました。

私ども、海外の研修生も含めまして、環境保全、またそれぞれの国の地域づくりに携わっております。そんな一端を今日、この場で知っていただきたいと思ひます。

また、この後に農場見学もあるわけですが、研修生の一つの成果として、環境に優しい農業ということで無農薬の作物を作っています。「農業が国の基礎である、土から離れない」という考えを持ってやっています。

かつての日本も農業から工業に発展したわけですが、そういう農業の土から離れない、自然に感謝するということから離れてしまったことにいろいろと問題があるのではないかとオイスカは考えております。



◀ 研修センター建物

農場見学▶



◀ 研修生の手料理

## 「センターの海外研修生のご挨拶」

リファ君：皆さま、こんにちは。私はリファと申します。インドネシアから参りました。私たちは今年の1月に日本へ来て、日本語や日本の生活について3ヶ月勉強してから、今野菜や米の作り方を勉強しています。

ディーパさん：こんにちは。私はディーパと申します。出身はスリランカです。薬を使わない、無農薬の野菜や米の作り方を勉強しています。先週の土曜日から、稲刈りが始まりました。私たちは薬を使いませんから、田んぼの草取り作業はとても大変でした。そして、日本の夏はとても暑かったです！

私はスリランカで農業のインストラクターをしていますが、日本で勉強していることはとても役に立ちます。農家の人達に、環境にやさしいセンターの農業技術を教えたいと思います。

リファ君：私も同じです。あと3ヶ月ですが、最後まで頑張ります。



リファ君（右）とディーパさん（左）

## 「オイスカ事業概要説明」

オイスカ愛知県支部  
会長 杉浦 正行 様



ご紹介をいただきました、愛知県支部会長の杉浦です。私は安城ですから、刈谷ロータリークラブの皆さまには、公私に渡りお付き合いいただいております。

ご縁があり、昨年5月から愛知県支部の会長をお引き受けすることになりました。刈谷市の岡本辰巳さんと一緒に県会議員をさせていただきながら、安城市長をやるまでオイスカ活動を続けておりましたが、そんなご縁で再び参画させていただくことになりました。

昨年2月、刈谷ロータリークラブの2501回例会で初めてオイスカのお話をさせていただき、今日は職場例会ということで、このセンターでオイスカの一端をご紹介します事を大変光栄に思いますとともに、皆さまに一層のご理解をいただきたいと思う次第です。

オイスカは1961年に設立されました。その教育理念は、物質と精神が調和した人類社会の繁栄を築くということを原点にしています。1969年に国際協力活動機関として、外務省、農林水産省、経済産業省、厚生労働省の4省の所管でこの団体が認められました。今日、国際 NGO と

して発足して以来、創立46年目を迎え、主に東南アジア、あるいは太平洋諸国から大変期待される組織に成長したわけです。

東南アジアの研修生、あるいは太平洋地域の研修生を受け入れており、約1年間、このセンターの農場で農業研修生として寝泊りをしながら農業の勉強をしております。もっと専門的に勉強したい人は、県下の園芸農家、養豚農家、酪農など専門の農家に派遣され、1年間の研修をしております。

先ほど研修生の2人は日本語でご挨拶しましたが、だいたい基礎研修は3ヶ月、全て日本語で生活しますから、日本語の勉強をまず基礎研修でやります。日本の生活習慣、その他の勉強も含め大体3ヶ月でやるそうです。若い人達ですから、早く日本語を覚えられますし、先輩の研修生や職員の皆さんとも、大変うまくコミュニケーションできています。

研修生がこの12月まで研修しますと、また新年度に新しい研修生が来るわけです。そしてスリランカ、フィリピン、マレーシア、パプアニューギニアなど、それぞれの母国で研修生OBとして、産業開発、農業指導などそれぞれの国づくりに頑張っているわけです。

県内では刈谷市、安城市、豊田をはじめとして、13のオイスカ支局がございまして、この組織の中でいろいろな活動を展開しています。

オイスカの活動は、今申し上げたような海外の技術協力がメインになると思います。例えば、農業を通じた技術者の育成については、特にその国に必要な開発のプロジェクトにも参画して、国づくりに貢献してもらう人材の育成を中心にしております。出来るだけ持続的な開発を目指すということで、この研修生たちが国づくりの使者として頑張ってくれているわけです。

第2は、今オイスカは地球環境保全活動を最大のテーマとして、各国でその実践活動をしています。これは、主として東南アジアの国々が森林の伐採をしたことで国が荒れ、地球環境も大変荒廃してきたので、今は大急ぎで植林活動を東南アジア全域にわたって進めています。

また、国内から植林ボランティアに数々の企業からご参加いただいております。例えば刈谷市では、アイシン精機さんがタイで植林活動を行っています。そして、昨年協定を結びましたトヨタ車体さんが、5カ年計画でインドネシアで植林活動を行っています。さらに県内では「あいや」という西尾市のお茶屋さんが、スリランカへ社員を派遣して毎年植林活動をしています。それから安城を拠点に、スギ薬局さんから愛知万博のとき大変なご支援を頂き、その益金の一部を植林資金としてスリランカへ協力させていただいております。

第3に、農業研修の受け入れ実績についてお話しします。1963年から2005年の間、7,768人の研修生を受け入れ、各国に修了生としてお送りしています。一番多い国はフィリピンで2,129人、それからマレーシアで1,980人、インドネシアで740人。こういった青年たちが国内、大阪、四国、福岡の4つの研修センターで1年の研修を経て、母国で頑張っています。

第4は、オイスカは国際理解活動を進めており、例えば民間レベルの交流とか、あるいは教育機関で国際協力の現場経験をさせていただいております。それから各種の国際会議への派遣、あるいは国際会議の主催を年数回ほど持っています。

そうした45年の活動を通じ、これまでオイスカは「国際青年友好賞」、そして「国連地球サミット賞」、さらには「国連カテゴリーI」に推挙され、これらの榮譽によって国際理解をいただきながら、特に東南アジア太平洋諸国からは大変な期待を寄せていただいております、今後もこのような活動を通じて、人づくり、あるいは国際貢献に努力したいと思っています。

愛知県支部のこれからの取り組みですが、これまではフィリピン、バングラデシュ等にそれぞれの地域からご協力いただき、農業研修センターを作っていました。そのセンターを中心として、ここよりも小規模ですが、現場の青年たちをそこでトレーニングしております。

今度支部で計画しているのが、スリランカに新しい研修センターを作ろうというもので、既に300万円近くの資金をもちまして、これからも若干の資金の募集をしながら、進めていきたいと思っています。

同時に、植林活動をはじめとして人材育成、海外では21のセンター的な箇所もございまして、それらと提携しながら国際協力活動を一層進めていきたいと考えている次第です。

昨年からは愛知県のオイスカの組織が2つになりました。従来、日本ガイシの小原相談役が支部の会長をしておりましたが、経済人ということもあり、日常活動はボランティアを中心として、現場中心の組織にしようということで、その方の組織を私が担当させていただくことになりました。

それから、経済界の皆さまには、経済的な支援を継続的にいただくため、「オイスカ後援会」という名前で中経連を中心としてメンバーアップしていただき、幹事会社約50社に後援会員として入会いただくこととなりました。後援会長には、中部電力の川口文夫会長に就任していただくことになりました。特に電力会社は地域の植林や環境にとっても関係が深く、「僕も一つ一生懸命応援しよう」ということをご理解をいただいたわけです。

もう一つ、県内では木材の価格が低減しており、せっかく森があってもこの森が大変崩壊しており、全国的には学校林もやはり収益が上がらないと、なかなか県も予算をくれないそうです。今年は安城農林の演習林が100町歩ほど足助にございますが、そこを2班に分けて1泊2日ずつで演習林の再生活動をやってきました。これからは愛知県の場合は、植林の代わりにそういった学校林の再生を継続的にやろうと思っています。

全国的には、富士山の1、2合目が大変荒れているようですから、この再生活動を東京電力が中心となって、今年のオイスカの全国的なプロジェクトとして進めています。植林だけでなく、逆にそういった再生活動あるいは造成活動も併せて行っている次第です。

このように大変地道な活動ですが、少しでもオイスカ

活動をご支援いただきまして、橋本会長のご挨拶のように、私どもはできるだけ地球温暖化の防止に、あるいは環境保全に向けてさらに活動を続けてまいりたいと思います。